

敬愛 誠実 努力

……都立大森高等学校 令和7年度校長通信

1月28日（水）<校長から、生徒の皆さんや本校に関心のある方に、折々に伝えたいことを発信します>

人生は有限だ、高校生でいる時間的有效に過ごそう

今週、都立高推薦入試があった。生徒諸君は、是非、自分たちが中学生だった時のこの時期のこと思い出してみてほしい。時間の経過の速さを改めて思い知るのではないか？

3年生は今日、高校最後の考查返却を受け、残すは卒業が無事に認定されるかどうか、という頃になった。美術室近くの壁面に、3年生から1、2年生に向けたメッセージが掲示されているが、実感のこもった言葉が並んでいるのを君たちの成長をうれしく思いながら読んだ。入学したての頃には決して表現できなかったであろう思いを、1、2年生はしっかり受け止めてほしい。

高校生でいる3年間をどう過ごすか、それは今後の君たちの人生をどう生きるかに影響する大切な時間であることを、今一度自覚してほしい。「勉強なんて後からだってできるから、遊びが優先！」なんて油断していると、若くて柔軟で吸収力に満ちた脳は、どんどん硬くなっていくのだよ。もちろん遊びも大事な経験だから、どちらかだけではなく、メリハリをつける自己管理が大切なのだ。

「ハレ」と「ケ」の感覚を養おう

「人々に愛され、社会に貢献できる人になる」←これは校訓をわかりやすく言い換えた森高のスクールミッションだ。君たちが「社会」に出た時、「ハレ」と「ケ」の感覚を身につけているかどうか、これが学力以前のこととして評価される場面に必ず出会うことだろう。

「ハレ」＝ 晴 = 非日常…入学式、卒業式、修了式、成人式、結婚式、葬式、表彰式、開会式…
「ケ」 = 習 = 日常、普段

どうだろう？イメージできているかな？つまりは「節目」、メリハリの意識と関係している。

このことを君たちに伝えたいと思ったのは、先に述べた入試などの時期になったせいでもあるが、成人の日に、自宅近くの式場に「晴れ着」で集まる大勢の若者たちを見たせいでもある。

「晴れ着」の対義語は「普段着」だが、では、なぜ「晴れ着」を身につけるのだろう？その意味するところを考えて着ることと、単純に目立ちたくて着る、もしくは、みんなが着ているから着る、ということでは大きな違いがある。君たちには是非、考えて着る人の方でいてほしい。人生の節目を祝うその表現である「晴れ着」は、祝ってもらうから身につけるだけでなく、祝われることによって自覚を促すものでもある。また、日常にいる人々に、非日常にいる人々をわかりやすく目印として示すものもある。喪服はその代表例かもしれない。

「ハレ」と「ケ」は、日本の文化に根差した表現だが、同じようなことを意味する言葉で「TPO」ということもある。時と場所と場面に応じた行動ができる人に対し、社会は非常に冷酷になることがある。覚えておこう。

「式」って大事だよね？

